

共同獣医学部学術セミナー

演題： 犬鼻腔内腫瘍の小分割放射線治療における追加療法の検討

講師： 上野 宥那 先生（麻布大学獣医放射線学研究室・帝京平成大学）

日時： 令和 7年 11月 6日（木） 16：00～

場所： 獣医学研究科棟 4 階 大講義室

講演要旨：

本研究は、犬鼻腔内腫瘍に対する小分割放射線療法の効果向上を目的に、再照射および放射線増感剤の有用性を検討したものである。鼻腔腫瘍は腫瘍の種類に関わらず、無治療で3～4ヶ月の生存に留まり、標準治療である放射線療法に加える追加療法の可能性が求められている。

第1章では、初回照射から5ヶ月以上の間隔を空けた再照射を30例で検討した。総線量を抑えマージンを取らずに行うことで重篤な放射線障害は認められず、生存期間中央値は504日と良好であった。特に若齢の症例や初回反応が長期持続した症例で延命効果が高かった。第2章では、5ヶ月未満での早期再照射を9例で検討した。再発が早期に生じた症例が対象であり、生存期間中央値は242日と短かったが、白内障1例のみと安全性は保たれていた。初回反応が乏しい症例群であることが予後に影響したと考えられる。第3章では、放射線増感剤としてリン酸トセラニブ・TS-1にカルボプラチン（CBDCA）を加え、3+3試験で投与量を決定した。小分割放射線治療は週1回で4週行うことから、CBDCAの用量を4分割し、週1回、4週投与で実施した。健常犬を用いたPhase 1試験では、500 mg/m²までの安全性を確認し、今後は腫瘍罹患犬で至適用量を評価する予定である。

本研究により、再照射は条件により有効な選択肢となり得ること、さらに増感剤併用による治療強化の余地が示唆された。

問合せ先：中市統三（内線5898）